

茶道の楽しさ

神奈川県立相模原高等学校二年（神奈川県）

坂本 咲紀

私が茶道部に入部したきっかけは、友人に誘われたことです。しかし、私はもうすでに他の部活に入部していたので、初めに誘われたときはお断りしてしまいました。ですが、よくよく考えてみれば、茶道部に入部したら毎回の部活の中でおいしいお菓子とお抹茶をいただくことができるのではないかと、という考えが私の中に生まれました。それは私にとってとても魅力的に感じました。すでに入部していた部活は兼部が可能であったこともあり、お菓子とお抹茶目的という、とても不純な動機で茶道部に入部しました。茶道部に入部する前は、茶道部員は正座してもしびれない、部員みんな上品そうなどのイメージを持っていました。また、茶道部は世界が違う、空気が違うと聞いていたので、その雰囲気私に馴染むことができるのか不安でした。しかし、初めての部活に参加して、茶道部に抱いていたイメージはいい意味で打ち砕かれました。確かに、作法室に入っ

たとき、ここは本当に学校なのかと疑いました。一面が畳の床、掛け軸や障子、襖、見慣れない道具がたくさんありました。世界が違うということを理解しました。また、お点前をする先輩の姿はとても美しく、まとっていたオーラもとても上品で、本当に私はここにいいていいのかと、ますます不安になりました。しかし、お点前が終わった後、その不安は取り除かれました。お点前が終わわり、案の定私は足をしびれさせ立てずにいました。しかし、それは私だけでなく、友達や先輩も足をしびれさせていました。その痛みにみんなワイワイ騒ぎ、お点前中の雰囲気は一転して、にぎやかで楽しい空気になりました。私も一緒になって騒ぎ、いつの間にか不安はなくなっていました。

私もお点前をお稽古するようになると、お点前の楽しさをさらに感じるようになりました。まず楽しさの一つ目は、作法の奥の深さです。作法の順番にも、一つ一つの動作にも意味があり、知るたび知るたび驚き、奥深さに感動させられます。また、その意味を知っていく中で、お道具やお客様の事を考えての行動というものが多くあり、作法には細やかな気遣いが詰まっているなど感じています。楽しさの二つ目は、季節によっていろいろ変わることです。まず、作法が変わります。一つの作法でさえ底が見えそうにないくらい奥が深いと感じるのに、季節が変わると新たな作法が始まります。ようやく、少しだけお点前が上手くなれた

かとも思ったころには、季節が変わり、お点前が変わります。もちろん、今までお稽古していた作法は生きていきませんが、それでも、もつともつと追求したかったと、お稽古したりないと感じます。飽き性な私でも、まったく飽きることなく楽しみ続けられ、自分でも驚いているほどです。

さらには変わることは、お茶碗の絵柄です。春は桜や金太郎、夏は紫陽花や金魚、秋はうさぎや紅葉、冬は柚や七福神など、その季節の植物や人物にちなんだ様々なお茶碗を選べて楽しいです。私はサンタクロースのお茶碗がかわいいので一番のお気に入りです。茶道の楽しさはいくら挙げてもキリがありません。お菓子やお抹茶のことなども書き尽くしたかったです。この通り今では、私は見事に茶道の魅力にはまっています。

茶道部に入る前は、まさか自分がかんなにも茶道にはまるとは思ってもいませんでした。お点前をして、楽しさに触れて、奥深さを感じ、私は茶道にすっかりと魅了されました。今後も、作法をお稽古し続け、もつともつと深いところまで追求していききたいと思います。